

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年11月7日
【四半期会計期間】	第93期第2四半期（自平成26年7月1日至平成26年9月30日）
【会社名】	日本鑄造株式会社
【英訳名】	NIPPON CHUZO K. K.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岩波 秀樹
【本店の所在の場所】	神奈川県川崎市川崎区白石町2番1号
【電話番号】	044(322)3751（大代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 阿部 俊彦
【最寄りの連絡場所】	神奈川県川崎市川崎区白石町2番1号
【電話番号】	044(322)3751（大代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 阿部 俊彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第92期 第2四半期連結 累計期間	第93期 第2四半期連結 累計期間	第92期
会計期間	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
売上高 (百万円)	4,802	5,103	11,110
経常利益又は経常損失 () (百万円)	124	43	13
四半期純利益又は 四半期(当期)純損失 () (百万円)	96	25	28
四半期包括利益 又は包括利益 (百万円)	10	95	17
純資産額 (百万円)	10,247	10,104	10,238
総資産額 (百万円)	18,141	18,398	18,690
1株当たり 四半期純利益金額又は 1株当たり四半期(当期) 純損失金額 () (円)	1.89	0.51	0.55
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	56.48	54.92	54.78
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	398	401	703
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	176	130	316
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	288	227	689
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	185	184	137

回次	第92期 第2四半期連結 会計期間	第93期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日	自平成26年7月1日 至平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり 四半期純損失金額 () (円)	0.48	1.36

(注) 1 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税)は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、第93期第2四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため記載していません。第92期第2四半期連結累計期間及び第92期は1株当たり四半期(当期)純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取りまく日本経済の環境は、円安の定着及び堅調な内需に支えられて緩やかな回復基調にあります。消費増税後の国内景気の持ち直しの動きは鈍く、欧州景気の下押し懸念及び新興国経済の減速への警戒感等もあり、先行きは不透明な状況となっております。また、設備投資については、底堅く推移しているものの、足踏み状態となっており、いまだ力強さに欠ける状況となっております。

こうした環境下において、当社グループは鑄鋼・鑄鉄品については大型鋁山機械用の鑄鋼品需要の低調が継続しており、受注は前年同期比8.4%の減少、売上高は半導体向け鑄鋼品や一般鑄鋼品等の増加により前年同期比7.6%増加しました。一方の公共投資関連も低位に推移し、厳しい状況が継続しており、当社グループの受注は、前年同期比6.0%の減少となりましたが、売上高は橋梁部品、柱脚等の増加により、前年同期比9.9%増加しました。

これらの影響でグループ全体としての連結売上高は5,103百万円と、前年同期比6.3%の増収となりました。利益につきましては、鑄鋼・鑄鉄品では半導体向け鑄鋼品や一般鑄鋼品の増収はあったものの、固定費負担増による大型鋁山機械用の鑄鋼品の利益率低下があり、また、公共投資関連では、競争激化により売上高水準の低い状況が継続しているものの、橋梁部品等に利益率の改善が見られ、グループ全体として黒字転換を果たし、グループ全体で43百万円の経常利益、25百万円の四半期純利益となりました。

(2) 財政状態

総資産は受取手形及び売掛金の減少に伴い、前連結会計年度末に比べ291百万円減少し、18,398百万円となりました。負債は支払手形及び買掛金と借入金の減少により8,293百万円となりました。また純資産は配当金の支払及び四半期純利益により、10,104百万円となり自己資本比率は54.9%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期末における現金及び現金同等物は184百万円となり前年同四半期末に比べ0百万円の減少となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは401百万円の収入となり、前年同期に比べ799百万円の収入の増加となりました。

その主な要因は、四半期純利益の増加、たな卸資産の増加額の減少及び仕入債務の減少額の減少によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは130百万円の支出となり、前年同期に比べ46百万円の支出の減少となりました。

その主な要因は、有形固定資産の取得による支出が減少したことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは227百万円の支出となり、前年同期に比べ515百万円の支出の増加となりました。

その主な要因は、借入金の返済による支出の増加によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、33百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	51,351,500	51,351,500	東京証券取引所 市場第二部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式。 なお、単元株式数は1,000株 であります。
計	51,351,500	51,351,500		

(2)【新株予約権等の状況】
 該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】
 該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】
 該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日		51,351,500		2,627		524

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
JFEスチール株式会社	東京都千代田区内幸町2丁目2-3	17,435	33.95
日立建機株式会社	東京都文京区後楽2丁目5-1	7,652	14.90
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5-5	1,464	2.85
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6-1	1,090	2.12
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10	1,035	2.02
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口4)	東京都中央区晴海1丁目8-11	643	1.25
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1丁目4	528	1.03
松本 直浩	愛知県名古屋市中川区	320	0.62
大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目9-1	266	0.52
JFEミネラル株式会社	東京都港区芝3丁目8-2	235	0.46
田淵 晴士	広島県庄原市	235	0.46
計		30,903	60.18

(注) 1 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4) 643千株

(7)【議決権の状況】
 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 28,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式。 なお、単元株式数は1,000株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 51,252,000	51,252	同上
単元未満株式	普通株式 71,500		
発行済株式総数	51,351,500		
総株主の議決権		51,252	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構(失念株式)名義の株式が7,000株(議決権7個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式519株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日本鑄造株式会社	川崎市川崎区白石町2番1号	28,000		28,000	0.1
計		28,000		28,000	0.1

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	137	184
受取手形及び売掛金	4,911	4,280
製品及び仕掛品	2,147	2,414
原材料及び貯蔵品	674	647
その他	149	133
貸倒引当金	24	21
流動資産合計	7,996	7,640
固定資産		
有形固定資産		
土地	7,204	7,204
その他(純額)	2,399	2,391
有形固定資産合計	9,603	9,595
無形固定資産	82	75
投資その他の資産		
その他	1,016	1,091
貸倒引当金	9	3
投資その他の資産合計	1,007	1,088
固定資産合計	10,693	10,758
資産合計	18,690	18,398

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,287	2,127
短期借入金	1,259	844
未払法人税等	16	11
賞与引当金	147	149
その他	524	507
流動負債合計	4,235	3,640
固定負債		
長期借入金	134	451
再評価に係る繰延税金負債	2,491	2,491
役員退職慰労引当金	53	56
PCB処理引当金	230	230
退職給付に係る負債	1,283	1,390
その他	23	33
固定負債合計	4,216	4,653
負債合計	8,451	8,293
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,627	2,627
資本剰余金	524	524
利益剰余金	2,620	2,417
自己株式	3	3
株主資本合計	5,769	5,566
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	142	177
土地再評価差額金	4,396	4,396
退職給付に係る調整累計額	70	35
その他の包括利益累計額合計	4,468	4,538
純資産合計	10,238	10,104
負債純資産合計	18,690	18,398

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	4,802	5,103
売上原価	4,452	4,576
売上総利益	350	526
販売費及び一般管理費	481	490
営業利益又は営業損失()	130	36
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	5	5
物品売却益	12	0
為替差益	1	2
その他	3	2
営業外収益合計	22	11
営業外費用		
支払利息	3	3
持分法による投資損失	12	-
その他	0	0
営業外費用合計	16	3
経常利益又は経常損失()	124	43
特別損失		
固定資産除売却損	8	1
特別損失合計	8	1
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	132	42
法人税、住民税及び事業税	11	7
法人税等調整額	47	8
法人税等合計	35	16
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	96	25
少数株主利益	-	-
四半期純利益又は四半期純損失()	96	25

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	96	25
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	86	34
退職給付に係る調整額	-	35
その他の包括利益合計	86	69
四半期包括利益	10	95
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10	95
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	132	42
減価償却費	157	158
賞与引当金の増減額(は減少)	8	2
貸倒引当金の増減額(は減少)	11	9
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	4	2
退職給付引当金の増減額(は減少)	95	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	4
受取利息及び受取配当金	5	5
支払利息	3	3
持分法による投資損益(は益)	12	-
有形固定資産除売却損益(は益)	8	1
売上債権の増減額(は増加)	676	622
たな卸資産の増減額(は増加)	458	237
仕入債務の増減額(は減少)	473	168
未払消費税等の増減額(は減少)	11	0
その他	103	4
小計	240	411
利息及び配当金の受取額	5	5
利息の支払額	3	4
法人税等の支払額	159	11
営業活動によるキャッシュ・フロー	398	401
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	502	125
無形固定資産の取得による支出	22	2
敷金及び保証金の回収による収入	0	0
投資有価証券の取得による支出	0	0
貸付けによる支出	0	0
貸付金の回収による収入	1	1
国庫補助金収入	360	-
その他	12	2
投資活動によるキャッシュ・フロー	176	130
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	375	565
長期借入れによる収入	200	650
長期借入金の返済による支出	156	182
自己株式の取得による支出	0	0
リース債務の返済による支出	1	1
配当金の支払額	128	128
財務活動によるキャッシュ・フロー	288	227
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	2
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	284	46
現金及び現金同等物の期首残高	469	137
現金及び現金同等物の四半期末残高	185	184

【注記事項】

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準とし、割引率の決定方法を、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が156百万円増加し、利益剰余金が100百万円減少しております。また、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

下記の会社の借入金に対し保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
新東北メタル(株)	28百万円	

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費の主要な項目と金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
賞与引当金繰入額	47百万円	45百万円
退職給付費用	22 "	23 "
給料及び諸手当	216 "	215 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
現金及び預金勘定	185百万円	184百万円
現金及び現金同等物	185 "	184 "

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月18日 定時株主総会	普通株式	128	2.5	平成25年3月31日	平成25年6月19日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月17日 定時株主総会	普通株式	128	2.5	平成26年3月31日	平成26年6月18日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、「鑄造関連事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	1円89銭	0円51銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額() (百万円)	96	25
普通株主に帰属しない金額 (百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額 又は四半期純損失金額() (百万円)	96	25
普通株式の期中平均株式数 (株)	51,323,857	51,323,286

(注) 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。なお、前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月7日

日本鑄造株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中村 裕輔 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 芝山 喜久 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西野 尚弥 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本鑄造株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本鑄造株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期報告書提出会社が別途保管している。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていない。